

団体名 糸満市立米須小学校・
三和中学校大度分校

連絡先 TEL : 098-851-7684
Eメール : oodobunkou@komesus.city.
itoman.okinawa.jp

1 実践事項 (②) 「特色ある取組」

タイトル : 「 糸満市学力向上主要施策に関する取組み 」

2 実践内容

本校は、児童心理治療施設（ノアーズガーデン）に併設された開校して今年度で6年目になる。在籍するほとんどの児童生徒が不登校や学校生活に不応を起こした経緯があり、個に応じた適切な支援を必要としている。学校では、落ち着いた環境の中で情緒の安定を目指し、様々な不安感や学習に対する拒否感を解消してきた。また、児童・生徒一人一人に応じた計画的で一貫性のある指導を心がけ、基礎的・基本的な学習を定着させ「自ら学ぶ意欲」を高め、自信を持たせるため下記の重点目標を掲げて取組みを行った。

(1) 重点目標

- 「自ら学ぶ意欲」を引き出し、高めるような主体的取組みの展開を図る。
- 情緒の安定を図り、不安感や学習に対する拒否感の解消を図る。

【学習意欲の向上】

- 小学校 ①学習規律の定着 ②問いが生まれる授業の実践 ③授業形態の工夫 ④「宿題の仕方」について共通理解・共通実践 ⑤テストの実施・振り返り ⑥読書活動の推進
- 中学校 ①生徒理解と生徒の特性に応じた授業 ②「自学自習の仕方」について共通理解・共通実践③各教科、単元テストの実施 ④補習についての取組み ⑤各種調査やテストに向けての取組み・計画 ⑥朝の活動についての取組み ⑦読書活動の推進

【情緒の安定】

- ①施設との連携 ②SST（ソーシャルスキルトレーニング）の充実 ③称賛の場の設定 ④クールダウンの効果的な活用 ⑤転入生へのスタートカリキュラムの実施 ⑥環境整備の充実 ⑦体験的学習の充実

(2) 具体的な取組み

- ・道徳の授業をローテーションやチームティーチングで行い教材の深化を図り、児童生徒に授業を合わせ自分ごとで問題意識を持たせる授業に取り組んだ。
- ・小中合同の代表研究授業や授業公開（授業参観）を実践を行い、他校種による効果的な指導技術や方法を共有し、その後の授業に生かした。
- ・海洋教育では、沖縄県立水産高等学校を始め、専門機関の職員を講師として招聘し、関連した校外授業を行うことで体験を通じた学習を行った。
- ・個に応じた学習指導を行うため、適宜ルビふりや字体のフォントを変えて個人に合った学習環境の設定を行った。
- ・個人の能力に合ったプリント作成や達成目標を設定し生徒の学習意欲の向上につなげた。
- ・生徒自身の達成感や自己肯定感を高めるため、基本を重視し、未履修の内容も含めた学習指導や授業形態の工夫（ICTの活用）を行った。

3 説明資料（写真、グラフ、図、表など）

（1）支持的風土の学級・学校づくり



【図1 SSTの充実】
毎月1回SST実施
每学期1回小中合同SSTの実施



【図2 称賛の場の設定】
作品展示及び学習発表会の実施

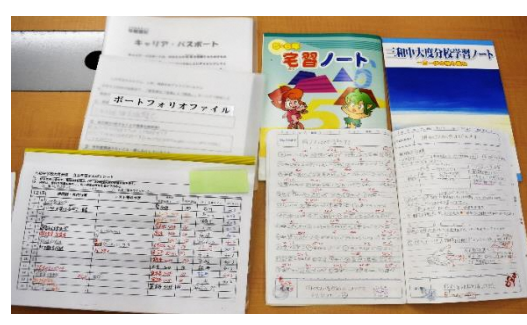


【図3 合同道徳の実践】
異学年での学び合う場の設定

（2）子供主体の学び合い高め合う授業づくり



【図3 授業形態の工夫（個別最適な学習・学びの個性化）】
ICTの適宜活用や問の生まれる授業の実施



【図4 生徒の学習の現状】
（つまづき）や困り感に対しての個々に応じた支援、自立学習へのサポート



【図5 海洋教育】 左) イノー観察



中) ウミガメ産卵場見学



右) ちゅら海水族館見学

（3）地域と共にある学校づくり



【図6 キャリア教育の充実】 左) 職業人講話



中) woodworking 体験



右) 職場体験



【図7 平和学習】左) 外部講師による平和の礎見学 中) 平和祈念資料観での平和学習 右) 対馬丸祈念館見学



【図8 読書活動の推進 (小中)】

移動図書館・月回の地域読ボランティア招聘の
読み聞かせ

4 成果

- 安心安全な環境づくりや個別の支援対応の工夫により、学習意欲の向上、情緒の安定につながった。
- 授業形態の工夫（ICTの活用）や問いが生まれる授業を通して課題を多面的にとらえて解決する学習につながった。
- 「宿題の仕方」「自学自習の仕方」について共通理解・共通実践や家庭学習確認表の活用等により、個々に応じた支援、自立学習へのサポートが可能になり、組織的に「確かな学力」の向上に向けた取り組みができた。
- 小中合同の代表研究授業や授業公開（授業参観）を実践することで、教師は他校種による効果的な指導技術や方法を共有することができ今後の授業に生かすことができた。
- 単元テストや小テストを通して生徒は自身の総合的な力を知ることによって自分の課題を見つけ、自ら学ぶ習慣（自己調整力）が身についてきた。
- 道徳の授業では視点ごとに授業スタイルを変えたことで、展開に広がりを持たせることができた。子どもたちは互いの意見を認め合いながら話し合いに参加しともに学び合おうとする姿勢が見られた。

5 課題

- 愛着基盤の不安定さが強い児童生徒へのより効果的な指導体制の工夫及び職員の資質向上、共通理解のさらなる充実が必要である。
- 学校の特性上、生徒数が少ないことと他校との交流もほとんどできないので、他の生徒と学びあう機会が少ない。「情報収集」「思考の可視化」などでICT端末の活用の工夫を進めたい。
- 少人数のため生徒はどのくらいの学力が身についているか客観的に知ることが少ない現状がある。米須小や三和中、転出先の学校と計画的な連携を充実することで、生徒は自身の学習状況を把握することができると思う。